

日伸 壱番館

「お年寄り」と「こども」が

同じ建物に共存し生活する。

まるで空想の世界から出てきたような施設が

出来上りました。



多世代共生型社会を目指して

2010年にピークを迎えた日本の人口は、既に減少という下り坂を歩き始めています。このような先細りの日本社会において、どのように新しい世代を育み、何を伝え残していくのかという事は、決して冗談ではなく、近い将来切実な問題になると私たちは考えます。より増加する高齢者人口と、減少に歯止めのかからない子供たち… 2005年には既に、日本人の65歳以上の人口が19歳以下の人口を追い越しています。今後、日本社会における若い世代の人たちは、ますます少数派としてマイノリティーに分類されてしまいます。政治家や企業は、少数派の若者よりも、多数派の高齢者に焦点を当てた政治や商品開発に、より精力的に取り組む事は間違いないでしょう。“高齢者の高齢者による高齢者のための世の中”がまさにやって来ようとしています。しかし、それが若い世代の人たちにとっても住み良い社会に、国家や企業にとって活力のある風土づくりに繋がるとは、残念ながら考えられません。今や子供達を立派な社会人として、また時代を切り開く担い手として育てるという事は、家庭や教育機関だけの問題ではなく、社会全体で向き合わなければならぬ課題ではないだろうかと、私たちは考えています。

特定の世代を狙い撃ちした施策は、効率的である一方で、世代間の分離を加速させる危険性を孕んでいると考えます。近頃では、高齢者が挙って地方都市に移り済むようなインセンティブを行政が用意するといった話が聞こえて来ますが、本来、私たちが理想としている社会は、街ごとに住んでいる世代が固められた”核世代化社会”ではなく、例えコミュニティの大小があったとしても、様々な世代の人達が、お互いに敬意を持って接しながら生活できる”多世代共生型社会”ではないでしょうか。



接面道路から見た南側壁面と正面入口



1階 中庭から見たホワイエ、回廊、テラス

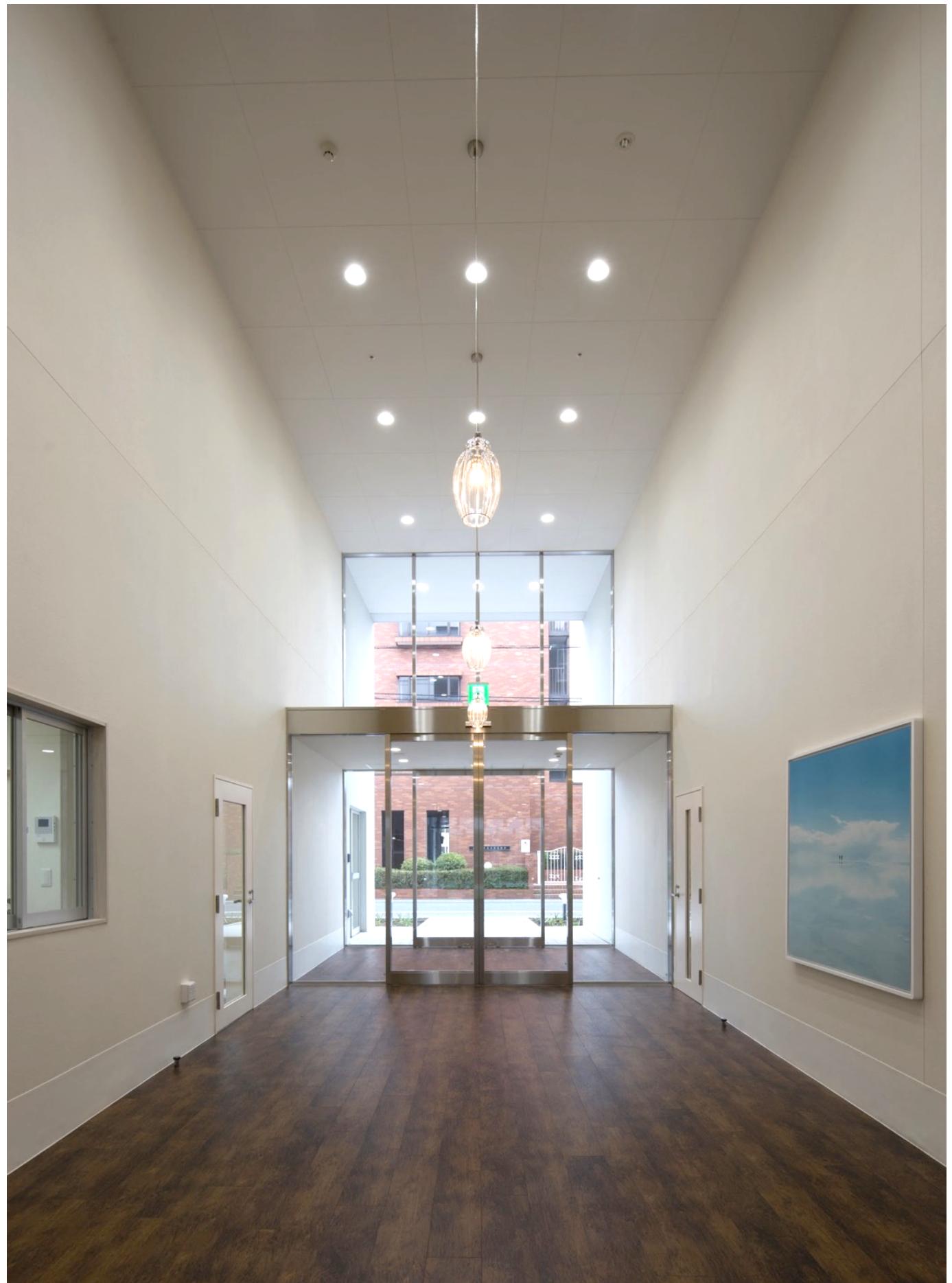
お互いに良い影響を与え合うため

自分の周りにどれだけ人が居ようとも、お互いに接点が無ければ、そこから関係を発展させる事は至難の技です。例えば、たまたま同じ場所に集まって住んでいる人達よりも、分散して広範囲に住む人達の方が連帯感や絆が強いという事もあります。私たちは、物理的距離に関係なく、日常生活の中で他者との接点を持つ事を難しくしている原因は ”環境=ハード” にもあると考えました。特に経済効率を重視した設計の共同住宅においては、複数の人が同じ屋根の下で暮らす際に生ずる“プライバシーの確保”という課題には向き合っても、“人的接点の活用”という点には関心がないのが現状です。私たちが目指した共同住宅は、プライバシーを尊重しつつ、今まで以上に他者との接点を自分で作り出せる環境を備えた施設でした。そして、そこには子供からお年寄りまで様々な世代の方が居て、適度な賑わいと活気があり、昔懐かしい日本の原風景的な“団らん”が再現できたなら… そもそも、子供からお年寄りまでの多世代が一緒に暮らす姿は、本来特別な光景では無かった筈です。しかし、都会への一極集中と核家族化が世代間の分離を招き、高齢者だけで子供のいない地域や、お年寄りとの接し方が分からない、ましてや見たことも無いという子供達を生み出すことになってしましました。世の中には様々な人たち、様々な意見、様々な状況… “老い”と向き合いながらも、毎日ハツラツと生活している大人もいれば、真綿のようにあらゆる事を吸収しながら日々成長していく子供… いろいろな人がいるからこそ、多様性を受け入れながら社会がより成熟して行ける、いろいろな人がいるからこそ、お互いの生き方に良い影響を与ええるような機会に巡り合えるのだと、私たちは思うのです。

アイコンタクトから始まる関係

しかし、そこは人間同士です。子供が苦手なお年寄りも居るでしょうし、お年寄りのシワシワの顔を見て立ちすくんでしまう子供も居るでしょう。私たちが目指した世代間の交流は、イベント的に用意された時間内に、有無を言わざず相手との接点をどれだけ増やすかという事を目的とするものではありません。日常生活の中で人を見かけた時に生まれる、”見た人”と”見られた人”が瞬間に交わす“視線のやり取り”によって、お互の存在を認識するというところから始まり、距離感を自分で調節しながら、それぞれのペースで関係を築いていく事が出来るような交流を実現したいと考えました。

私たちが描く理想を具体的にハード（建物）に落とし込むためには、何はともあれ”共同住宅”や”保育園”といった施設という区切りで、それぞれの世代の人たちを分断する事は避けなければなりませんでした。そのために、ワンパッケージ（一棟建て）という形態を選択しながらも、建物の中に、それぞれの世代ごとの”繩張り”に相当する空間と、それらを繋ぐための”緩衝地帯”に相当する空間の両方を確保しました。更に、建物を利用する様々な人たちが”視線のやり取り”を可能とするために、共有部分の随所に”見晴らしの良い場所”を設置し、人の気配を感じ易くなるような工夫を施しました。そうして誕生した、正面エントランスから建物中央に設けられた中庭を繋ぐホワイエ、その中庭を囲むように配置された保育園、デイサービス、高齢者向け住宅。上階から中庭を眺め易くするために大きな窓を一面に配した回廊と迫り出したテラス、感性の共通体験をするために配置されたアート作品…これら全ては、日伸壱番館に込められた私たちの想いを叶えるための重要な仕掛けであり、それと同時に大きな特徴となりました。



1階 ホワイエから見た正面入口とフォトアート

歩き出した私たちの施設

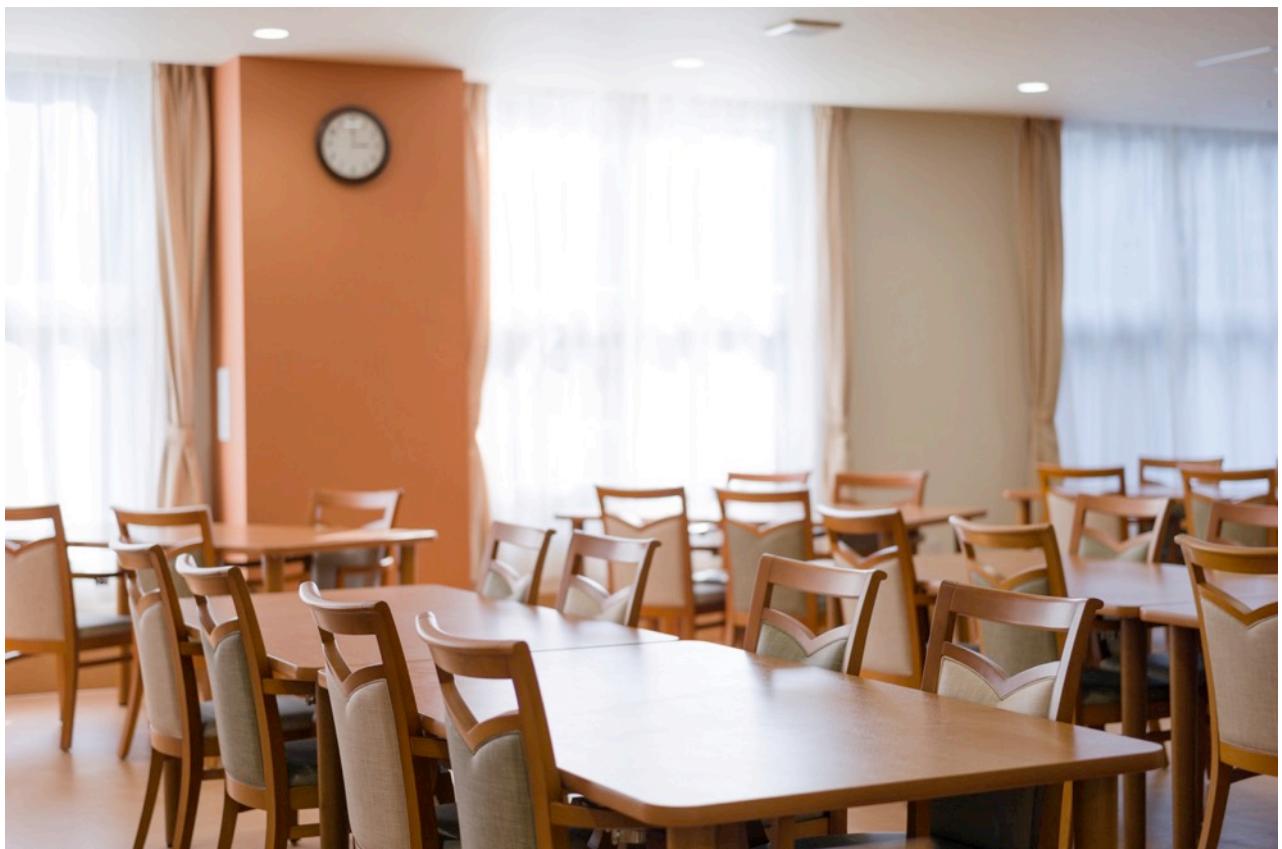
現場を取り仕切る、学研ココファン西船橋の千田所長（当時）にお話を伺いました。

- サービスを提供する側から見た施設全体の印象はいかがですか？ -

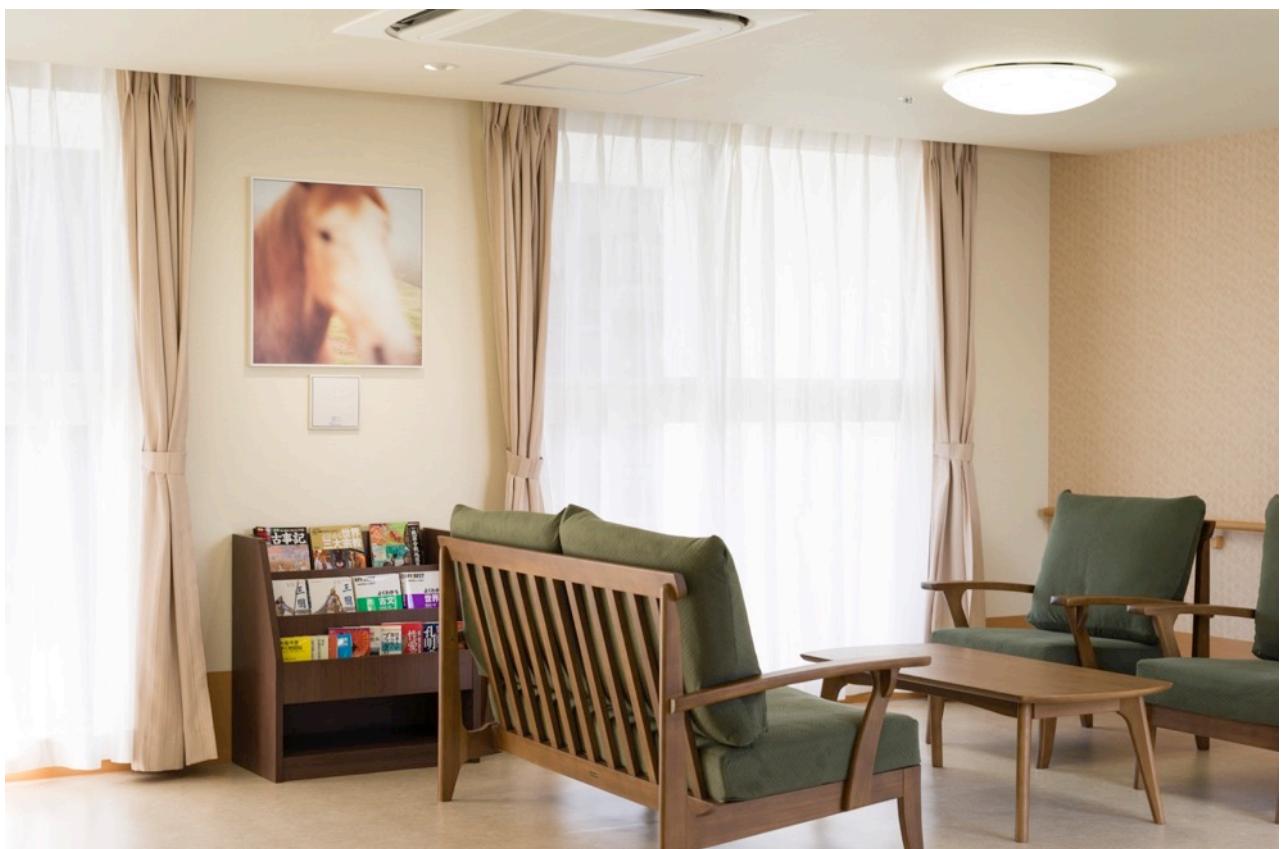
「オープン当初は入居率も低く、園児も数人しか居なかつたので、全体的に静かで落ち着いた雰囲気の施設でした。でも、オープンしてから一年が過ぎた頃になると、入居率は90%を超え、保育園が船橋市の認証を得たのをきっかけに園児たちも増え、施設全体が大分活気に溢れて来ました。やはりこの建物の良さは、人が集まってこそ発揮されるものだと感じています。スタッフの中には、お子さんを館内の保育園に預けたり、学習塾に通わせたりしている方もいます。仕事場の近くに自身の子供が居るというのは、安心できるのだと思います。」

- 訪問者や入居者からの反応はいかがですか？ -

「この施設を見学しにいらした方々には、『施設が明るいですね。』とおっしゃられる方が多いです。私たちは施設見学の方に、運営側としての施設案内資料の他に、この建物のコンセプトを説明した資料も一緒に渡しています。この施設の良いところを分かって頂いて、少しでも入居を決断する際のプラス材料に繋がれば良いなと思いまして。実際に、『子供たちが居るから』と言う理由で入居を決めた方も何人かいらっしゃいます。入居なさった方のご親族からは、『この施設に入居してから当人が穏やかになった。』というお話を頂きますが、私自身も日々の業務をこなしながら思う時があります。認知症を患った状態で入居なされた方も、館内にあるデイザービスを日々ご利用頂きながら、子供達と交流を重ねているうちに、全く違和感なく周囲に溶け込んでいく様子を間近で見ていますので。」



1階 食堂



2階 ラウンジとフォトアート

- 世代間交流は実際どのように行われていますか？ -

「お年寄りとの交流会に関しては、もう少し子供達の年齢にも幅を持たせた方が良いという思いもあり、他の保育園と合同で実施した事もあります。その交流会は関係者からの評判も良く、成功だったと思います。先日、中庭を舞台に見立てて、園児たちのお遊戯の発表会をしました。中庭に面したサッシを開放し、お年寄りの方々には、中庭を囲むように椅子を並べて頂き、更に2階と3階のテラス、そして廊下からも発表会を見て頂きました。大勢の観客に見守られて、子供達が張り切っている姿を見ると、私たちまで元気が出てきそうな気分になりました。ゆくゆくは、特別な機会を設けてイベント的に交流するのではなく、お年寄りと子供達が交流する事が、日常の延長線上にあるような環境作りをしたいと思っています。例えば、園児のお散歩の付き添いを、入居者の方に協力して頂くとか… 何はともあれ、まずは週1回のペースで交流時間を持つように、関係各所連携をとりながら運営していきたいと考えています。」

- 関係各所で連携をとるための特別な仕組みはありますか？ -

「そんな事はしていません。メールを出したり、電話をかけたりするより、廊下を歩いて扉を数枚開ければ、お互いの顔を見ながら関係者同士話しができますから。ただ時折、朝礼の時にスタッフに対して改めてこの施設のコンセプトと目指すところをおさらいする事があるくらいです。」

- ホワイエをどのように活用されていますか？ -

「地元の音楽学校の先生や生徒さんによるコンサートを開催したり、手作りパンの即売会を催したりしています。この即売会の時には、ざっと160名くらいの近隣の方々が見えられました。また、地元の民生委員の方々にもホワイエを使って頂けるように働きかけています。時々、学習塾の子供たちが宿題をしている光景を目にする事があります。折角ですので、なるべく色々な方々に利用して頂きたいと考えています。」



1階 デイサービスから見た中庭



1階 中庭から見た保育園



Human Orchestra Project

日伸壱番館は、「子供と高齢者」だけのための施設ではありません。子供と高齢者が良い関係を育む事によって生まれる周辺への影響は、やがて巡りめぐって、労働生産世代である私たちを含むコミュニティ全体に対しても様々な効果が期待されるからです。この施設を利用する方々がお互いに共鳴し合い、素敵な”ハーモニイ = 関係”をたくさん生み出していく事を、私たちは心より願っています。

本物のかかわりが育まれる 施設を超えた施設

玉川大学 教育学部
教授 若月芳浩

人が人間として生きていく。その始まりは誕生からです。最近の脳科学や心理学の研究では、人間の持つ物凄い力が様々な角度から解明されてきました。乳幼児に関する研究の中でも、ヴァスデヴィ・レディ著「驚くべき乳幼児の心の世界」佐伯訳(ミネルヴァ書房 2015)によると、生後2ヶ月の赤ちゃんが人として大人の意図を読み取り、その関わりによって人間らしい成長が育まれることが解明されています。

人が人間として育つ根幹は、他者との関わり方にあると言われ、「二人称的アプローチ」の重要性が認識されつつあります。このアプローチは、相手のために何かをする事から始まる人間関係ではなく、心から相手を尊重し、尊厳を持って接することから関係が生まれ、そういう関わりの中で人と人のつながりが次第に強固になり、やがてそれが原点となって人間らしく育っていくと言う事を示しています。エル・ノディングスは「ケアリング」(晃洋書房 1997)の概念によって、人と人が関わる間で、ケアするだけの人と、ケアされるだけの人という関係ではなく、人が日々の生活をする中で、互いが互恵的にかかわることによって本来の人間としての関わりの質が変化することを強調しており、互いの立場 や役わりが変化する場面のない二項対立的な関係を否定しています。これは子育ての支援に関しても同様で、子育てを支える側、また一方は支えてもらう側という感覚よりも、共に子育てや生活を楽しむことを重視するという考え方についものです。

以上のような理論的な背景から日伸壱番館を見ると、二人称的アプローチとケアリングが実践されるべく、そのコンセプトによって日々の生活が実現されています。人の育ちや感覚はその建物や環境が支配します。保育園の子どもは日々周囲の人の関係の中で生きています。高齢者の皆様と自然な形で接する事ができる環境があるということは、日本人の農耕民族としての原点に近い状況を再現しています。赤の他人でも協力し合いながら生きていく事が出来るという、日本の大切な文化、世界に誇れる文化は、家族同様に大勢の人と共に力を合わせて生きるという人間にとて大変重要な事です。高齢者の方が1階の食堂を利用する時など、普段の生活の中で乳幼児の存在を感じ、更に発展したかかわりの中で深い関係性が育まれる施設…その空気が日伸壱番館の随所に流れています。大家族が当たり前に暮らしていた日本古来の伝統が実現出来る場…それがこの建物にはあります。

人間として大切に育まれるべきことが、乳幼児にとっても高齢者にとっても意味深い位置付けで展開される施

設。この日伸壱番館は今までの施設の概念を超えた施設であると確信いたしました。良き子育て、良き高齢者としての時を過ごしてみてはいかがでしょうか。

左から
学研ココファンナーサリー西船橋 田中園長
玉川大学 若月教授
学研ココファン西船橋 千田所長（当時）
株式会社 日伸 吉田代表取締役

写真：清水朝子 撮影





Human Orchestra Project

プロジェクトメンバ

代表 吉田治喜

株式会社 日伸

株式会社 DAN 総合設計

株式会社 学研ココファン

株式会社 学研ココファン・ナーサリー

株式会社 学研エデュケーションナル

大成建設株式会社

株式会社 フロンティアクリエイト

清水朝子 (アーティスト)

みずほ銀行 押上支店

吉田プラ工業株式会社

敬称省略 順不同

日伸壱番館

2014年4月オープン

千葉県船橋市二子町 610 番地

総床面積 4,162 m²:1,259 坪 地上5階RC造

建物内施設

ココファン西船橋

- ・サービス付き高齢者向け住宅（74戸）
- ・居宅介護支援サービスセンター
- ・訪問介護サービスセンター
- ・デイサービスセンター

ココファン・ナーサリー西船橋

- ・千葉県認可保育園（小規模保育：0歳児から2歳児まで）

学研マナビア

- ・学習塾

On Her Skin, Infinity

- ・フォトアート（作：清水朝子）

その他

- ・ホワイエ
- ・駐車場

アクセス

鉄道

JR 東日本

- ・ 総武線
- ・ 武藏野線
- ・ 京葉線

西船橋駅 南口 徒歩 14 分

東京メトロ

- ・ 東西線
- ・ 東葉高速線

西船橋駅 南口 徒歩 14 分

自動車

京葉道路

- ・ 原木 IC

西船橋・松戸方面 5 分





Human Orchestra Project